

こんにちは 山田耕平 です

2013.2.28 No.107

このニュースへのご感想
ご意見をお寄せください!

杉並区善福寺 2-2-1 1
TEL 090-9973-0941
ホームページ
<http://yamadakohei.jp>

2月22日 区長が緊急記者会見 緊急的・臨時的な待機児童対策を打ち出す

定員弾力化での緊急対応 不十分ながら一歩前進

この間、杉並区で大問題となり、連日メディアにも取り上げられている保育待機児童問題について、保育定員増の緊急対応が発表されました。多くの保護者の切実な要望を受けてのものであります。

党区議団は、再三にわたる待機児童対策の拡充を求め、先の一一般質問でも、保護者の声を取り上げ、認可保育園の大幅増設、四月入園の受け皿確保を求めました。今回、その要望が一部実現することとなりました。

今回の対応は、あくまで緊急的・臨時的な対応です。既存園の定員弾力化は詰め込み保育に繋がる可能性もあり、本質的な問題解決にはなりません。既存園の園長からは「受け入れには限界がある」との声も寄せられています。



当日、保護者による異議申し立ても行なわれた。

認可保育園整備の遅れの実態

H20~22年度	認可保育園新設	0園
H23年度	認可保育園分園新設	3園
	(定員増)	125名
H24年度	認可保育園新設	1園※
※ 既存保育室からの移行のため、実際の定員増は10名程度		

緊急対応の内容と問題点

- ◆緊急・臨時対応で200名規模の保育定員確保
 - ・定員弾力化での定員増100名
既に、前区長時代から定員弾力化での対応を行っており、さらなる弾力化は限界。臨時的な対応に留め、保育施設増で対応する必要がある。
 - ・既存区施設等を活用した保育施設増設、都「スマート保育」活用
設置基準は自治体が決めることになるが、「認可基準に準ずる」ことを表明していない。劣悪な安上がり保育に繋がる可能性がある。
- ◆25年度以降の認可保育所整備を推進
 - ・認可保育所3所新規開設
昨年の計画の遅れや、既存園の閉園分も含めており、純増とならない。
 - ・計画的な取り組みを推進
今後の計画が、具体的には示されていない。今後、すみやかに計画を拡充することが求められる。

認可保育園の抜本増設が必要

また、来年度の早期に臨時的な保育所整備も検討されています。

しかし、待機児童解消は、認可保育園の大幅増設でこそ行なわれるべきです。認可基準は、先進諸国の中では遅れた内容となっていますが「子どもの命を守り、安全に過ごす」最低限の基準となっています。多くの保護者が認可保育園に子どもを預けたいと願うのは当然のことです。

この間もニュースなどで取り上げてきましたが、貴重な国公有地が売却され、認可保育園・特養ホーム整備などが進んでこなかった現状を、ただちに改める必要があります。

住民福祉の向上を 保健福祉分野で質疑予定

準備中のテーマ

- ◇ 保育問題全般 緊急待機児童対策、認可保育所増設計画
 - ◇ 特別養護老人ホーム増設計画の拡充について
介護基盤整備の進捗状況
高齢者の住まいの確保
 - ◇ 介護保険改定により現場で発生している問題と対応
 - ◇ 障害者のグループホーム増設
発達障害への対策について
 - ◇ 災害時要援護者問題について
 - ◇ 生活保護基準切り下げ問題
 - ◇ 各種保険料の負担増について
- などの点について、質疑を行なう予定です。みなさんの身の回りの問題などがありましたら、情報をお寄せください。

党区議団を代表して質疑に臨みます。ぜひ、傍聴にお越しください。

保健福祉分野は、区政運営のなかで最大規模の予算が計上される分野であり、審議内容も多岐に亘ります。質疑の時間が制限されるなかで（一議員あたり6分）、議員と理事者との緊迫した質疑が行われます。議員となり、接してきた住民の方々の切実な要望、様々な問題を行政に伝え、暮らしを応援する“区政運営を求めます。

質疑は3月13日
11時頃を予定

一問一答の緊迫した質疑に



**認可保育園・特別養護老人ホームの増設、介護保険問題
障害者の日常生活支援、災害時要援護者問題など**

三月六日より、予算特別委員会が行なわれます。来年度の予算を審議する極めて重要な委員会となります。私は、保健福祉分野の質疑を担当する予定です。保健福祉分野は、区政運営のなかで最大規模の予算が計上される分野であり、審議内容も多岐に亘ります。

育メン日誌

妻が入院…父子生活開始！

保育園問題に取り組んでいる真っ最中、妻が入院することになりました。切迫流産と悪阻が酷く、極度の脱水症状になったためです。

私にも取材が殺到しており、てんてこ舞いの上、さらに父子生活がスタート！！

大変な共同生活ですが、実家の支援も受けながら、何とか、やり繰りしています。

食事も風呂も寝る時も、いつも一緒。仕事柄、徹夜が日常茶飯事のため、仕事場にお蒲団を敷いて寝かせています。この一週間、息子との絆が、さらに深まった気も(笑)

一つ嬉しいことは、この間、保育運動をしている保護者のみなさんから暖かい応援の声寄せられていること。

やはり、みんなが支え合っていくことが必要不可欠ですね！



会議なども一緒…

自民党区議会議員による 待機児童保護者への批判について

杉並区の保育待機児童の保護者の実態は、連日報道され、大きな問題となっています。そうした中、自由民主党の田中ゆうたろう議員が保育園入園を訴える保護者を批判する持論をブログに掲載し、区内外から、怒りの声が殺到。マスコミにも取り上げられています。

田中議員は待機児童の保護者に対して「最初から社会でお宅の子ども面倒を見ろということか」と批判。「お願いします。私たちの子育てをどうか手伝ってください」と頼むのが待機親のマナー・エチケットだなどと述べました。

田中議員の発言は、決して許されるものではありません。そもそも、この事態を招いたのは行政です。児童福祉法にてらせば“保育に欠ける児童”に対し、保育を実施出来ない行政にこそ、第一義的な責任があります。また、その行政の施策をチェックしてこなかったのは、二元代表制の一角を占める区議会議員です。自身の責任に言及することもせず、“待機児問題は保護者の責任だから、お願いしろ”などと「自己責任」にすり替えることは、言語道断です。

田中議員の発言を厳しく批判すると共に、発言の撤回と保護者への謝罪を求めます。